

平成 16 年徳島県沿岸部における海況の特徴

海洋資源担当 石田鉄兵

黒潮について

今期の黒潮は1～7月後半までN型で推移し、7月後半にN型流路からA型流路への変化が起こり、8月に安定したA型流路となりその後現在までA型流路が継続しています。

2003年11月下旬から2004年2月上旬に九州南東沖に小蛇行が停滞しており、この小蛇行は2月中旬から3月中旬に四国沖を東進しました。

2月下旬に新たな小蛇行が九州南東沖で形成され、この小蛇行は、4～5月に四国沖で停滞して発達し、東端は4月下旬に室戸岬、5月下旬に潮岬へ達しました。

A型 N型: 伊豆諸島近海での黒潮流路蛇行の型の分類。
流路の型については下記の図に示したとおりである。

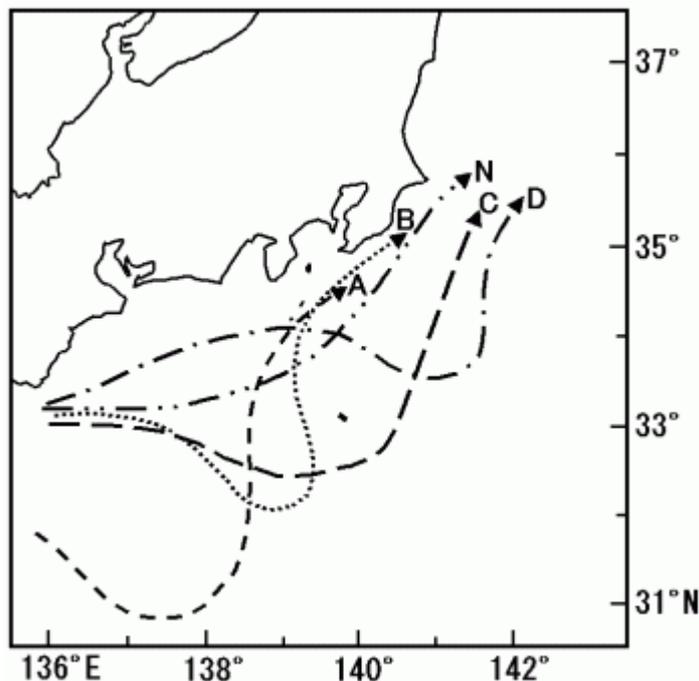


図 1 伊豆諸島近海での黒潮流路蛇行の型の分類

表 1 黒潮主軸の各岬の離接岸表現基準

黒潮軸離接岸表現基準(マイル)	室戸岬(正南)	潮岬(正南)
接岸	2.5以内	2.6以内
やや離岸	2.5～4.5	2.6～5.6
かなり離岸	4.5～6.5	5.6～8.6
著しく離岸	6.5以上	8.6以上

(川合(1972)黒潮と親潮の海況学、海洋物理学、東海大出版)

黒潮の離接岸表現の基準を左の表1に示しました。また図2に室戸岬沖の黒潮離岸距離(海上保安庁海洋速報 参考)を、図3に潮岬沖の黒潮離岸距離(海上保安庁海洋速報 参考)を、表2に平成16年の両岬の黒潮離接岸状況(海上保安庁海洋速報 参考)を示しました。

なお、主軸の位置については海上保安庁海洋情報部のデータを参考にしていますが、海上保安庁海洋情報部における主軸の位置の求め方については、まず黒潮の北縁を以下の5項目を総合的に解析して決定し1.表面水温水平分布図を作成し、等値線の幅が混んでいる海2.表面海流矢符図を作成し、2ノット以上の海3.200m水温水平分布図を作成し、15~16 を目処に等値線が北側に混んでいる海域4.遠州灘に発生する冷水渦の南方5.そのほかに人工衛星の海面高度計のデータなど)、黒潮北縁から13マイルの所を黒潮の最強流速帯として黒潮の流軸としています。

表2 平成16年の両岬の黒潮離接岸状況

月	上下旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
室戸岬	上旬												
	下旬												
潮岬	上旬												
	下旬												

●:接岸 ○:やや離岸 △:かなり離岸 □:著しく離岸
(海上保安庁海洋速報 参考)

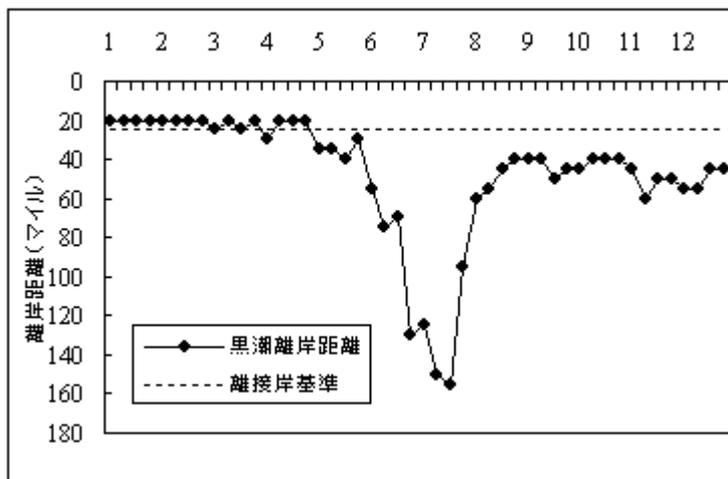


図2 室戸岬沖の黒潮離岸距離(海上保安庁海洋速報 参考)

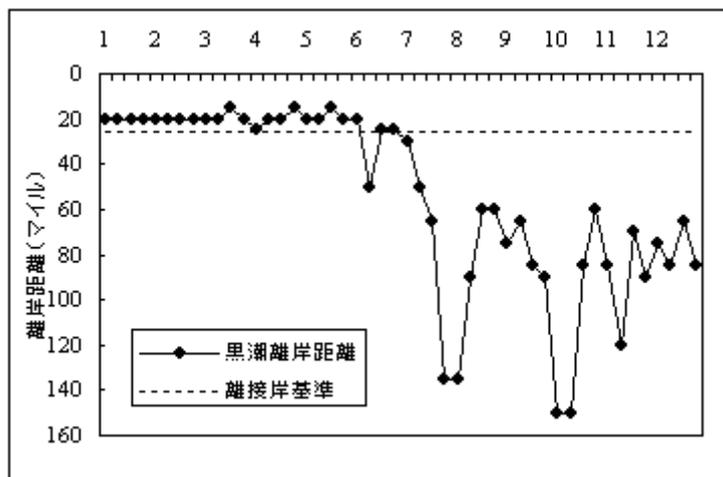


図3 潮岬沖の黒潮離岸距離(海上保安庁海洋速報 参考)

海洋観測結果について

表3に、調査船「とくしま」が毎月行っている海洋観測で得られた各海区の水深 10m 層における水温の平均値をまとめました。

なお、8月については度重なる台風の影響で、全観測地点で観測することができませんでした。

表3 平成 16 年における徳島県周辺海域の海区平均水温

海区		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
播磨灘	本年値	12.68	9.37	9.18	11.46	14.56	18.46	23.03	26.16	26.54	25.29	20.89	17.65
	平年値	11.96	9.09	8.72	10.29	14.04	17.46	21.21	24.41	26.45	24.76	20.82	16.75
	偏差の目安	+	+ -	+	++	+ -	+	++	++	+ -	+	+ -	+
紀伊水道	本年値	14.6	11.29	11.72	15.27	17.55	20.59	24.13	25.62	26.03	24.21	24.21	18.09
	平年値	13.85	11.76	11.36	12.97	16.16	18.8	21.83	24.66	25.73	24.08	21.08	17.72
	偏差の目安	+	- +	+ -	++	+	++	++	+	+ -	+ -	+++	+ -
海部沿岸	本年値	15.67	15.32	16.54	19.8	20.42	22.99	26.73	欠測	26.88	24.31	21.17	19.75
	平年値	17.38	16.29	15.82	16.92	19.21	21.28	23.66	26.27	26.64	24.71	22.24	19.88
	偏差の目安	- -	-	++	+++	+	+++	+++	欠測	+ -	- +	- -	- +

表4 偏差の階級

階級	偏差表現
+ -、- +	(高め、低め基調の) 平年並み
+, -	やや高め(低め)
++, --	高め(低め)
+++、---	かなり高め(低め)

この表から、1～2月に海部沿岸では平年より低い水温で推移していることがわかります。

両岬が接岸時の海部沿岸海区での平均水温は1月は17.01、2月は16.01で、1968年から2002年までの海洋観測結果の平均値(1月17.38、2月16.29)とあまり差がないのですが、2004年1、2月の海部沿岸海域では1月に-1.71、2月に-0.97となっていました。冬季的那賀川等の低温な水温の流入の影響を受けた紀伊水道内海系水が、海部沿岸に沿って南下したことが原因の一つにあげられます。

黒潮がN型時であった1～7月には概ね「やや高め」～「かなり高め」で推移しました。4月に海部沿岸海区、紀伊水道海区で「かなり高め」で推移したのは黒潮の顕著な貫入が原因の一つに考えられます。

8月は播磨灘海区で「高め」、紀伊水道海区で「やや高め」で推移しました。これは記録的な猛暑のためと考えられます。

9月以降は全海区でほぼ「平年並み」で推移しました。これは黒潮の離岸に伴い、黒潮からの暖水波及の影響が弱まっていったことが原因の一つにあげられます。

11月に紀伊水道で「かなり高め」であったのは外海水からの暖水の波及、海部沿岸が「低め」であったのは11月の終わりにみられた四国東岸に沿って南下した内海系水の影響があげられます。このように、黒潮の日々の変化が紀伊水道及び海部沿岸海域の海況に大きく影響を与えていることがわかります。

水産研究所では、毎週月曜日に、短期的に変化する黒潮の最新情報をホームページ内の週間漁海況情報において提供しています。